



ZENSOUSEI 21th

平成11年6月8日第三種郵便許可(年4回2・5・8・11月の10日発行) そうせい第175号平成28年11月発行

SOUSEI



2016.11 No.175

特集 坐禅会 の ス スメ



坐禅会のススメ

「坐禅会を開催する寺院が減少している」

最新の宗勢総合調査結果による寺院活動状況を憂慮した曹洞宗参禅道場の会は、平成28年6月17日、曹洞宗檀信徒会館で「坐禅会を広めるために」と題した座談会を開催されました。座談会には曹洞宗参禅道場の会から井上光典会長、松倉太鋭副

会長、柴田芳憲編集部長の3人と元総研講師の中野東禪師、全国曹洞宗青年会からは安達会長、倉島副会長、織田広報委員が招待され、計7人で全国的に減少傾向であるという坐禅会を拡大していくために意見を交わしました。その内容の一端をご紹介します。

曹洞宗参禅道場の会とは

曹洞宗参禅道場の会は、宗旨の根幹たる只管打坐のすばらしさを檀信徒や一般の人びとに教化している参禅道場主同志が情報交換や研修しあうことによって、世の中に坐禅を広めることを目的に昭和56年に結成された、35年の歴史を持つ会です。

年2回の研修会開催と、機関紙『参禅の道』を年2回出しており、現在まで65号を発行するなど研鑽を重ねられています。会員数491人。

宗勢総合調査結果・坐禅について

13,645カ寺からの回答があり、「曹洞宗の教えや儀礼は誇りである」という問いに「そう思う」と答えた僧侶は88.5%と全体の9割近くあり、「坐禅に励むべきである」という問いに「そう思う」が74.3%、「あなたのお寺ではどのような教化団体を主催しているか」は、「何もしていない」が32.2%、梅花講が29.3%、坐禅会が19.9%であること、「昨年坐禅会を何回開催したか」は、平均では3.9回、一回あたり平均参加者数は14.1人、その参加者に檀信徒が占める割合は、平均44.6%という結果が座談会の冒頭に紹介されました。

※坐禅会開催寺院の推移はグラフを参照。



※平成27年度 曹洞宗宗勢総合調査結果速報より

速報の感想・坐禅会減少原因の考察

安達会長は先ず「なぜ坐禅会を広めなければいけないのか」を捉え直す必要性から切り出しました。教えや儀礼が誇りであると感じ、「坐禅に励むべき」という数字も74%あるが、なぜそう思うのかを私たち青年僧侶がうまく説明できるのか考えたいと述べました。昭和60年の最盛期にはバブル期という世情のニーズがあった可能性を指摘し、以降の減少傾向について「集中力を養いたい、自分の気持ちを整理したい、生活や仕事に活かしたい」といった参加者の求めるものの多様化と開催側の意識の間にズレが生じていたこと、また発信の仕方が不十分だったのではと推察しました。

倉島副会長は、坐禅会を開催する青年僧侶の役割としての務めに触れました。急に役僧が入って坐禅会ができなくなることもあり、副住職が坐禅会を二番目、三番目に位置付けていく。それが開催の減少につながっているのではという寺院運営の実情を踏まえた考察をしていました。

織田広報委員は、坐禅会は中身を坐禅と講話に絞った簡単な内容にしなければ長期開催が辛くなる事を指摘し、また「たとえ人が集まらなくてもやり続ける、門戸を閉ざさない決意が開催者であれば結果も違ってくる」と僧侶の意識に目を向けました。

坐禅会拡大の方策

安達会長は自坊の坐禅会を例に「定期開催にこだわらず、開催しやすい日を選ぶ」こ

右から中野東禅老師、参禅道場の会井上光典老師、松倉太鋭老師



座長を務めた柴田芳憲老師



とで継続の負担が軽減できるとし、ノウハウを吸収するために積極的に他の坐禅会に参加して運営方法を見ることも一助となると話しました。

倉島副会長は自坊の坐禅会が毎週開催のため、自分が不在の時は「参禅者が自ら鐘を鳴らして坐り、作務をしてお茶を飲んで帰る」自立した運営プログラムを作り上げた経験を語りました。インターネットを活用した積極的な発信が実を結び若者が多く参加しており、年間150回ほど開催する中で、参加者は延べ約1,200人。その中にはインターネット経由で遠方からの参加者も増えていることを挙げ、IT技術の活用も坐禅会が盛り上がる一つの要因と分析しました。

中野老師は「坐中口宣が一番大事」と分析され、鈴木俊隆老師の『禅マインドビギナーズ・マインド』を例に挙げられ、参加者の問題意識と坐禅をつなげる坐中口宣の指導書が少なく指摘されました。

警策についての「厳しさ・我慢」のイメージ

元来は激しく叩くものではなかったはずの「警策」が、叩かれるのを我慢するのが修行とのイメージが付き過ぎたために、叩かざるを得なくなっている現状には全員が共感していました。

警策を入れることについて、都内で坐禅会を開催する老師がたは「激しい競争社会の中で、自分を叩いてくれる体験を欲する人」が少なからずいることを指摘し、求める方

がいたる以上は警策を用意するべきだが、疲れ切って眠っている参加者に対しては「ここに休みに来てくれた」との思いで接するべきと話されました。

坐禅会を聞法場とする

「聞法がなければ参加者の仏教の解釈が自己解釈になってしまう」と語る中野老師は、最も簡単な講話の題材として『般若心経解説』を提示されました。また降誕会などの年中行事に因んだ坐禅会をすることにより、講話のテーマを決めることができるという意見が挙がりました。

その後、安居者対象の「僧堂意識調査」での設問「重点的にやってほしい修行内容」の結果第1位が「坐禅」だったこと、参禅者からの「坐禅で命を助けられた」という言葉、そして坐禅は人が穏やかに生きていくための道だというのが安居中にわかってきた等の、それぞれの思いが語られていきました。そして安居から帰ってきた直後こそ、坐禅体験を一番体温のこもった言葉で語れる時期であり、熱意を持って帰ってきた徒弟に住職が自坊の布教活動の一つを任せてほしい、未熟であっても若く熱い気持ちを発露させるような後押しを、との意見が挙がっていました。

継続開催のための工夫

若い世代を対象を絞った簡潔な新聞広告を出したことで参加者が増えたこと、坐禅の素晴らしさを毎回話すこと、講話を連続

した話とすることが挙がりました。講話の中に時折「修行の思い出話」の回を挟むことが参加者を飽きさせず、人数の増加につながっているとの発言がありました。

安達会長は、SNS(ソーシャルネットワークサービス)の有効性と、公共施設に告知を貼る効果を例に挙げました。SNSはフェイスブックが功を奏しており、県外からの参加者も随分増えたとのこと。また継続参加を促す工夫としてポイントカードを作り、10ポイントごとに何かしら差し上げるといったのが参加者の楽しみとなり、更に参加者の手元にカードが残ることで継続参加を促進していると紹介されました。

また、寺院で坐禅会を開催する体制が整わず、やむなく街中の部屋を借りて開催しているという知人の話から「場所が駅に近いというメリットもある」との意見、都市部では夜9時からの坐禅会が盛況である事例の話に及びました。

東京都新宿区で、多い時には100人超の参加者を相手に坐禅会を継続している松倉老師は、秘訣としてホームページでの告知を挙げられました。宗務庁ホームページ内「坐禅のできる寺」からのリンクがほとんどで、一度テレビに出ると坐蒲が足りない程の参加者が集まるとの話から、あらためて世間の坐禅への関心の高さが窺われました。

若い僧侶はそれぞれに方法論を持って特徴を出していけば良いという意見の後、外国人観光客が禅に触れる縁を結ぶ場所作り



のために「禅センター」として坐禅のできる
ところを都市部に作り、駅の近くで指導し
てくれる人や場所を設定する構想があるこ
とが紹介されました。

只管打坐というだけでは継続参加に つながらない

「只管打坐」が究極ではあるが、それだけ
では数回の参加で終わってしまい、宗門や
僧堂での教育も、その境涯に至る途中が曖
昧になっているのではないかとという発言か
ら様ざまに話が広がっていききました。

中野老師は、連続講義で僧侶自身と参加
者の学びが続き、テキストを配布すること
で参加者は連続して来るとして、講義とテ
キスト作成の重要性を強調しました。題材
として『般若心経』は日常生活で起きる心の
問題や悩みの根本を説き明かしたものであ
ること、二つ目に「マインドフルネス」を挙
げました。

また坐禅会は「諸縁を放捨し、万事を休息」
する時間、日常から全ての縁を一旦放り投
げる時間を過ごす体験であり、日常生活の
中では切り離すことが難しいが、寺院へ足
を運び、壁に向かって坐することで「能動的に
日頃の縁と一旦離れる」のであり、これはお
寺に赴いて初めて可能なこと、との声が挙
がりました。

織田広報委員は、講話の中で澤木興道老
師の「坐禅をやっても何にもならん」という
言葉に触れた経験から、「何にもならん」と
仰ったのは、社会的な成功やトレーニング

には直結しないという現世利益否定の意味
であること、また坐禅ほど自己の存在が生
き生きしてくるものはなく、気持ちも穏や
かになるのが感じられ、人間の根の部分か
らよくなっていくのだと説き続けていきた
いと語りました。

礼拝読経を取り入れる

中野老師は「礼拝がある方が、人間が柔
らかくなる」という調査結果と、高齡の参禅
者が「やっぱりお経を読んでいるところは有
り難い」と言ったという話を紹介しながら礼
拝読経を取り入れるべきと提言されました。
倉島副会長は、災害発生後は坐禅会に物故
者供養を取り入れて『般若心経』を参加者と
共にお勤めしながら、世間の方が坐禅に求
めているストレス軽減、リラククス効果と
いった「精神面へのプラス作用」と、只管打
坐の教えのギャップを感じながら開催して
いると話しました。

参禅道場の会への要望

参加者が坐禅会に求める厳しさと健康上
の利益と、開催する側の只管打坐の溝を解
消するために、只管打坐の解釈を平易な表
現で説いた「指導者向けのガイドブック作
り」がまず必要ではないかとの意見が挙がり
ました。

倉島副会長は、初心者に配慮されたテキ
スト配布型の好例として「五観の偈の説明、
みんなで歌を歌いましょう、命を敬いましょ
う」など全編をとおして平易な表現が貫か

れているテイク・ナット・ハン師の僧団が作
成したテキストを紹介しました。

安達会長は、我々が説く只管打坐と、一
般の方のニーズが合致していない部分を感じ
るとし、坐禅会に一般の方が何を求めて
いるか探っていく必要性を主張しました。
そして、最初に坐禅を指導する方法が一番
大事であり、何のために坐るのか、なぜこ
こに来て坐るのかを「坐禅会を主催する者の
テキスト」として参禅道場の会に求められま
した。

中野老師も調身・調息・調心の鍛錬と、
道本円通、非思量の関係に対して示した出
版物は少ないとして共感を示されました。
また開催のスタイルについては「坐禅会は和
尚一人でも指導できる」ことを大事にして、
人手がなければ開催できない坐禅会ではな
く、続けるためにはなるべく無駄なことはせ
ず、坐禅と講義を中心としたシンプルな開
催を強調されていました。

織田広報委員は、自身が坐禅会を開催す
る中で呼吸の仕方について迷った経験につ
いて、『普勸坐禅儀』では「鼻から微かに通ず」
とはつきり書かれているのに「お腹をしぼる
呼吸を十五分以上継続する」といった別の情
報を見続ける中で次第に迷いが生まれたこ
とを話し、指導者のためのテキスト作りに
期待を寄せました。

中野老師は、調身を第一とし、調身によ
り丹田呼吸ができて、そしてなるべく時間
をかけて吐く、吸うときはその反発で吸っ
てという正しい呼吸について解説され、新

今、なぜ「坐禅会」なのか

◆曹洞宗参禅道場の会編集部長 柴田芳憲老師

昔の人びとと比べ現代人の生活は豊かで便利で快適にはなつたが、人間の苦悩は減少したとは言えない。自然災害、自然破壊、戦争不安、貧富の差、少子高齢化、老後死後の不安などの不定愁訴に囲まれている。まさに四苦八苦、否、五苦十苦である。2、500年前、生老病死の四苦救済に真剣に取り組んだ釈尊は坐禅修行に取り組み、大悟し、真実の平安を得られた。その素晴らしい教えを正しく継いだ両祖も只管打坐の坐禅を宣揚した。

この坐禅の素晴らしさは、戦後の禅ブームで一般の人びとも知られ、世界中に広まった。今また、禅を求める人が増え、都会の参禅会には老若男女が集まり盛況を呈している。しかし宗門全体では開催寺院の減少という憂慮すべき事態である。参加者は、悩みや心の乱れを解消したい、生き方考え方を学びたい等の気持ちで坐禅会に参じ、満足してくれる。

昔も今も寺の活動は葬儀法事が中心である。意義ある葬儀の導師は、坐仏を行じてこそ真の導師となる。しかし、これからの寺のあり方は葬儀法事による檀家中心ではなく、一般の人びとの悩みや不安に寄り添ってやれる寺であるべきである。誰もが気安く寺に来られるように門を広げ、敷居を低くしてやりたい。そのため、和尚は宗旨の根幹たる坐禅を中心に据えて、様々な企画を考える。それが和尚を高めるし、信頼される和尚にもなれる。

◆全国曹洞宗青年会会長 安達瑞樹

私たち青年僧侶の中には、僧堂を下りていざ坐禅会をするようになった時、どのように開催すれば良いかわからないという方が多いと思います。私自身もそうでした。それは日程や告知方法、継続していくためのコツ、そして何よりも「只坐る」という坐禅

の魅力をいかに伝え、足を運んでいただくかです。

そんな中で、私が考える「坐禅会」はお寺を地域のよりどころとして開催することです。近くにあるお寺を身近に感じていただく。先日、北米各地の禅堂を拝登させていただいた折に、地域や社会の中で寺院のあり方が、人びとが寄り添うという場など、死者を弔うというイメージが先行している現状がありますが、海外の禅堂では生活や仕事に「ZEN」を活かそうとする僧侶や信徒の方がたの努力が、特別な空間を作っています。敷居が高い！というイメージは逆にお寺の崇高さと比例しますし、そこをうまく利用しながら坐禅会という特別な時間を地域の皆さまと作ることであれば、災害時の救援活動など他の活動でもお寺と地域との繋がりが益ます深まるのではないのでしょうか。それぞれで開催されている事例を、自身の教化活動にもっと活かすことの出る情報交換の場所が必要です。全国で開催されている坐禅会の情報を共有し、それぞれの活動に活かすことができるよう、当会としても検討してまいります。

◆全国曹洞宗青年会副会長 倉島隆行

社会問題となっている自死、鬱病などストレス社会に生きる現代人に我われ曹洞宗僧侶はどのように歩み寄れば良いのか？それが本山修行を終えてからの私の一大事です。

そこで始めた日曜坐禅会ですが、最初は誰も来ないか、1〜2人程度で開催しておりました。やはり、自分自身で掲げた看板で坐禅会を開催すると己の未熟さが露呈してきます。思ったように人は集まらないし、法話も伝わりにくい。しかしながら一生懸命に坐禅会を継続し、諸老師に色いろと教えを乞うところに僧侶としての成長があると信じております。坐禅を求めている人はどの地域にも必ずいて僧侶に相談したいと願っている人も沢山いらっしゃる。その思いをしっかりと受け止め、共に端坐するところに曹洞宗寺院としての輝きが宿るのではないか。それが正に今、坐禅会が必要な理由であります。

たなテキストを作成することについて肯定されました。

今後の課題

倉島副会長は「表現を現代風にアレンジしていく」ことを青年僧侶が担う課題として挙げました。諸先輩の著された解説書に理解の一助としてイラストを入れること、また現代の参禅者が求めている、自死問題や精神的な病気への対応という社会のニーズに、私たちがどうアレンジしていくかが若い世代の課題であるとし、青年会という組織を活用して全国展開できるよう努力していきたいと力を込めました。

織田広報委員は坐禅会を途切れさせないことを第一の課題として挙げました。自分の生活圏で坐禅会が開かれているのと、坐禅をしたくて開催情報を調べても開催が無いのでは、私たちに向けられるイメージも全く違つてくると主張しました。

安達会長は北米参禅ツアーに参加した時の経験から、海外の僧堂には生活や仕事に禅を生かそうという考えがあり、今はその逆輸入の形で、海外で噛み砕かれた部分をこちら側が学べる部分も多くあるのではないかと語りました。来年は国際センターの20周年という時期もあり、海外から自国の禅を見つめる機会をより多く作り、「坐りた」という熱意に満ちた海外の坐禅会から学ぶこと、そして「坐禅会に参加して良かった」という、参加者のニーズの酌み取りを行っていただければと話しました。

青年僧侶からの新たなアプローチ

座談会の中で「若い人がユニークなことをやって、それぞれに方法論を持って特徴を出していくこと」とのご意見をいただきました。ここでは各地で行なわれている坐禅を中心とした教化活動の中で、特徴的な活動例やノウハウを紹介していきます。

青年会が拓く、 新たな坐禅会のかたち

① 京都から…坐禅かふえ

平成28年10月3日、知恩院や八坂神社にも近い円山公園隣にある、京都府京都市の喫茶店「大正ロマン亭」を会場に、京都曹洞宗青年会（以下、京都曹青）主催「坐禅かふえ」が開催されました。一般の方に気軽に坐禅に親しんでいただきたいの思いから、平成24年度に京都曹青50周年を記念して始められたこの企画は、詩仙堂丈山寺様や、この日の会場の大正ロマン亭様で開催されています。開催場所や当日の天候にも左右されませんが、平均で40人ほどの方が参加されるそうです。京都曹青の皆様も、毎回10から15人が集まり準備や坐禅指導、外での声掛けなどを行っているそうです。

この日の京都は雨が降り蒸し暑い生憎の天候でしたが、青年僧に声を掛けられ、坐禅に興味を持たれた13人の方が参禅されました。参加者は観光に来られた方、会社勤めの合間の方、修学旅行生、外国の方とそのご友人の日本の方など様ざま。2階の小



上／結跏趺坐について説明する松本会長
下／真剣に坐る修学旅行中の学生

部屋で坐禅の指導を5分ほど受けた後、10分ほど坐禅を行じ、その後は指導した青年僧とともに1階のカフェで抹茶とお菓子が無料で振る舞われ、10分から15分の茶話を行います。初めての坐禅に、作法や足の組み方に悪戦苦闘される方、また自ら合掌し警策を受けられる方もおられ、それぞれに坐禅を楽しまれていました。また、茶話では正式な抹茶を初めて飲んだと感動される方、本来の坐禅は40分ほどだと聞いて驚く方など、色んな話をして青年僧と交流を深めていました。

京都曹青の松本宣雄会長は「詩仙堂様で開催する時は、庭園を見ていただきながら寺院内を移動し、大正ロマン亭様で開催する時は公園や店内の雰囲気味わい、京都の風情を肌で感じつつ、坐禅に親しんでいただければと思っています。一期一会のご縁を大切にしながら、青年僧にとっても自らの研鑽の場として努めています。また、これをきっかけに本格的な参禅を希望される方には、京都曹青発足時から活動の柱として続けている、一泊二日で行う『緑蔭禅の集い』『秋冷禅の集い』への参加をお勧めしてお

納僧募集

東シナ海海防の要・長崎県佐世保市に立地するお寺です。僧堂安居修了後、実地修行の場として、また見聞を広める場として、西方寺納僧としての勤務に応募ください。

仕事内容

法務・作務

社会保険あり
住居手当あり

自動二輪免許取得助成あり

応募資格

僧堂安居修了者、予定者
自動車普通免許所持者

詳細はご連絡下さい。

東陽山 西方寺

長崎県佐世保市八幡町 5-13
TEL 0956-22-4272
FAX 0956-22-4244

佐世保 西方寺



ります」と話されていました。

日本全国や世界各国から観光に訪れる方が多い京都で開催される「坐禅かふえ」。より一般の方に近づき、禅に親しんでいただくスタンスは、京都以外の地であっても、大いに参考になるのではないかと感じました。

文／広報委員長 宮入真道

② 静岡から…出張！かけ込み寺

昨今の現状をみるに、寺院と一般の方との間には少し距離があるように思われます。そこで、我われ曹洞宗静岡岡県第一宗務所青年会(中部地区)は、お寺に人を戻したいという想いを起点に、一般の方とお寺の距離を縮める方法を考えました。

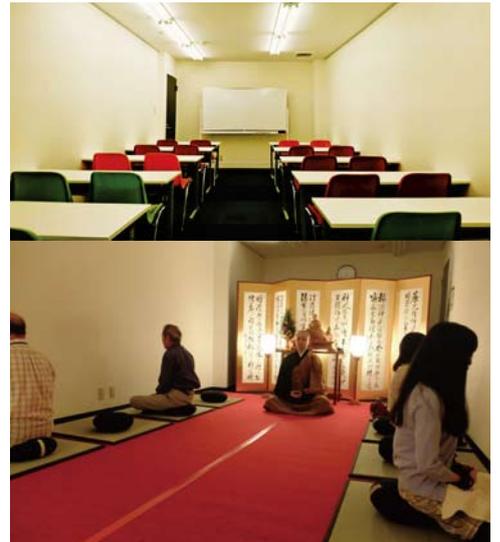
それにはまず、お寺とは何か?ということとを改めて考える必要がありました。議論を重ね辿り着いたのは、お寺を魅力的に見

せるものは、伽藍や沿革だけではなく「そこにいる僧侶に魅力が無ければ人は集まらないのではないか」ということでした。

その為、我われ僧侶の魅力を最大限伝えられるよう、あえてお寺を離れ、人通りの多い駅前前の公共スペースを会場に「出張！かけ込み寺」と題し、参禅体験・傾聴活動(寺カフェ)を行いました。

昨年9月、第1回の開催前

に「坐禅かふえ」を主催されている京都曹洞宗青年会様を訪ね、体験談を伺い参考にさせて頂きました。そして、手探りの中間催当日を迎えました。予約制ではないため不安もありましたが、無事盛会の内に幕を閉じました。



上／駅前の貸し会議室
下／装飾後の同部屋

平成28年10月1日。第2回「出張！かけ込み寺」を開催。前回は、全てイス坐禅でしたが、今回は床に赤毛氈や畳のパネルを敷き、坐蒲を用いた本格的な坐禅とイス坐禅が選べるようにしました。また、「時間が短かった」というお声を多数いただいたので、

説明を含め約30分間に設定。坐禅部屋も2部屋に増やし、法話も行いました。数百年に及ぶ歲月の中で培われた空気感を、鉄筋コンクリートの貸し会議室の中に再現するというのは不可能ですが、その分会場の装飾や照明、威儀や姿勢などは特に気を配りました。

この参禅会だけで諸課題を打破できるとは言えませんが、本当の危機とは憂慮すべき現状に目を背け、我われ自身のモチベーションが低下することではないでしょうか。参加者から激励の言葉を多くいただいたことは、何より有難いことでした。これを糧に、現代に生きる禅僧として、これからも人びとに寄り添って行けるよう会員一如研鑽を積んでいきたいです。

文／曹洞宗静岡岡県第一宗務所青年会
丹羽崇元

子ども坐禅会と社会科学習

長崎県の西方寺様では、毎週土曜日に一般を対象とした坐禅会を行い、小学校の夏休み期間には子ども坐禅会を開催しているという取り組みです。

御住職自身が取得されている社会科教員の免許を活かし、県内宗門寺院の子弟教育を兼ねて地域の子ども達に広く参加を呼びかけ、夏休みには工場見学を中心とした社会科の自由研究を行っているとのこと。

子ども達に目の前の宿題や課題を消化す

るばかりの目先のみを考えた学習ではなく、見学を通し「どういう仕事をしたか、どういふ大人になりたいか」という将来への目標や目的を持った上で、日頃の学習に役立てていただきたいとの願いがあり、また活動を通して所属の小学校校区という小さな世界を越え、もっと広い「地域や郷土」といった視野や繋がりを持つてほしいとの思いを込めて企画をされているそうです。

御住職からは「本来お寺の役割とは寺子屋をはじめとした地域の子弟教育を担い、江戸から明治時代で日本は世界でも世界最高水準の識字率を有しておりまさにお寺の寄与が不可欠であった。現在教育現場では

教育法規の厳守や生活指導、学校行事または保護者の理解など、教員が時間に追われ思うように教育を施すことができない状況にあり、我われお寺の役割は子弟の精神修養や人間教育の見地からますます重要になっていくのではないかと」のメッセージをいただきました。

また、青年会や宗務所が協働で開催する「子ども緑蔭禅の集い」に、社会科学習や人權学習を取り入れておられるケースもあります。事前学習や事後の話し合いを僧侶と子どもたち(または一般参加)が一緒にを行い、共に学んでいくことで、新たな気付きや親近感が育まれるのではないかと思います。



坐禅会で社会科学習

一般大衆への発信

宗勢総合調査結果速報で減少傾向が明らかとなった坐禅会。檀信徒向けの紙媒体による「寺報」も欠かすことのできない教化活動ですが、坐禅会のような一般の方を対象にした活動にはインターネットでの宣伝が大きな力を発揮しています。ここでは曹洞宗が現在行っている情報発信を紹介いたします。

宗門からのアプローチ 曹洞禅ナビ

曹洞宗の公式ホームページ「曹洞禅ネット」では、坐禅のできる寺院情報を発信しています。トップページから「坐禅」↓「坐禅のできるお寺」へクリックしていくと、全国の曹洞宗寺院を検索できる「曹洞禅ナビ」に進みます。検索したい都道府県を選択し坐禅の項目にチェックを入れて検索を押せば、坐禅会を開催している寺院を調べることができます。

座談会の中で紹介した通り、参禅道場の副会長松倉太鋭老師の坐禅会は、宗務庁ホームページを經由して開催情報を知った方が非常に多く参加されているとのことでした。開設から間もないサービスながら情報発信に効果を発揮しています。

インターネット検索エンジンに「坐禅市町村名」を入力し検索すると、曹洞禅ナビは検索結果の上位に表示されるようになっていきます。また、宗門公式サイトという信頼性を含めて、一般の方が坐禅会開催寺院を探すにあたっての役割を十分に果たしていると言えるでしょう。

残念ながら、坐禅会を開催している寺院は多くが曹洞禅ナビを活用していないようです。ナビで全国寺院の開催情報を検索すると、全国14,643カ寺中で坐禅会を開催している寺院は326カ寺しか表示されず、宗勢調査結果を大幅に下回る「2.2%」という結果になります。元もと認可参禅道場となっている寺院は全て情報公開されている上での数字ですので、ナビ開設後に開催情報を自身の手で入力された寺院は極めて少数であるのが現状です。

坐禅をしたい気持ちを持って検索される方がたと開催寺院をつなぐためには、開催寺院が宗務庁から送られているIDとパスワードで管理画面に入り、アイコンの表示設定欄で「坐禅」の表示をオンにしていた必要があります。

※僧侶に対しては、特に今年度、宗務庁教学部長の定める現職研修の研修要綱を「坐禅会を始めるために―宗門の坐禅をひろめよう」とし、坐禅会開催を奨励する研修を行っています。

SNSの活用

SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）とは、インターネット上で利用者が日常での出来事を文章や写真で投稿して知人に伝えたり、知り得た情報を共有し合うサービスです。数あるSNSの中で世界的に利用者が多く、情報の拡散性が高いと言われているものの一つがフェイスブックです。

紙媒体の活用

ホームページやSNSというインターネットを介した宣伝は、コストをほぼゼロにしながら全国に発信できる一方、その分野に興味のある人からのアクセスを待つ形態となります。対して新聞広告やチラシなど紙媒体での宣伝は、費用は掛かりますが地元で集中して告知することができる点が大きなメリットとなります。

曹洞宗はフェイスブックと、拡散性を抑えながら写真の画質に特化したSNS「インスタグラム」を併用しています。インスタグラムでは、曹洞宗寺院の建築に施された意匠の美しさを伝える写真のほか、僧堂行持や法要における瞬間の美しさを高精細の画像として切り取り、説明を排した簡潔さで伝えていきます。

坐禅会の開催地域に集中して告知すると、友人同士誘い合わせでの参加につながり参加者増が見込めそうです。

広告を出すのは難しいことではなく、新聞社様に画像と掲載を希望する文章を送信すればデザインはしていただけるということです。

※新聞社により、掲載条件は異なります。



曹洞禅ナビ検索画面



坐禅アイコンの下「表示する」にチェックを入れるとナビに検索されるようになる



特集まとめ ストレス社会の「救い」に なるために

いた坐禅会。午前6時から本堂で坐禅、6時30分からラジオ体操、再び本堂に上がり、朝のおつとめ。終わって、お粥の朝食。食後に作務(境内清掃)の後は遊び時間。お昼まで皆で堂内や境内で遊び回った思い出は、大人になっても参加者の間で話題に上るそうです。

小学生の男の子が坐禅会の時に住職から聞いた「自分の、名前の大切さ」という法話が強烈に印象に残っていて、自分が成長し結婚し子どもを授かった時、自分が親として名前を付ける尊さを感じて再びお寺を訪ねてきたという話もありました。

また、入社1年目の新人研修の一環として行われている坐禅会。住職の講義(法話)は、仏教の教え・考え方の中から特にこれから会社、或いは社会の中に飛び込む若い人たちに役に立つようなものが選ばれています。さらに坐禅や精進料理に親しんでいただくことで、慌ただしい時間の流れからほんの少し離れて、これから会社員として生きていく中で仏教が少しでも「支え」となるようにと考えられています。研修を受けた若者たちが社内でも中堅やベテランとなり、研修としての坐禅の思い出を語ってくれることもあるそうです。

座談会の中でも触れられているように、坐禅会は社会の需要もあって昭和60年代に大きな流行を迎えましたが、その後縮小の一途を辿り、近年は都市部を中心に再び注

目を集めつつあります。この間、各寺院・宗務所・教化センター・青年会など様々な主催の坐禅会の中で、それぞれに研鑽や試行錯誤が繰り返されてきました。ご紹介した静岡の「出張！かけ込み寺」が開催前に京都の「坐禅かふえ」に学ばれたように、先達や友に学ぶことを怠らず、更にまた自らの思いや工夫を乗せていくことが大切ではないでしょうか。「百尺竿頭上なほ一歩を進む」の教えのように「これ以上無理だろう」「他に出来ることはないだろう」と思うところから、その先を目指して参禅者の求めるものを考えつつ、如何に仏祖伝来の坐禅を伝えることが出来るのか、私たち一人一人が今一度参究するべき時節が来ているように感じます。

「坐禅会の記憶」に挙げた事例は、必ずしも「坐禅・参禅」が中心ではないかもしれませんが。しかし、現代の学校や会社は「スクーラカースト」「LINEいじめ」「パワハラ」「ブラック企業」という言葉が次から次へと生み出される、ストレスの多い集団生活の場となるが多くなっています。そんな心の苦に満ちた社会の中で、一度でも仏様の教えや坐禅、仏教(禅宗)の文化に親しむ機会があれば、ストレスから自分を解放できる機縁となる人がいるはずですよ。それは、ご参加いただいた方の中でほんの一握りかもしれませんが。しかし、もしも一人の方の「救い」となれるのであれば、この参禅の体験は大いなる意味があると思います。

座談会から示唆をいただき、坐禅会を始めようかと悩んでいる方が一歩を踏み出す後押しになればと、今回の特集「坐禅会のスズメ」を企画いたしました。先ずは規模や参加人数の多寡はさておき、一度開催してみても、そこから内容や広報について工夫を重ねられるのも良いかと思えます。「法要」「法話」「精進料理」「イス坐禅」などと組み合わせることも選択肢の一つです。お寺は地域や一般大衆に開かれたもの、そして「坐禅」は、仏教・禅宗の最も尊ぶべき教えのひとつです。今回の特集が、工夫を重ねながら檀信徒や地域の方がたと坐禅会を作り上げていただく、その一助となれば幸いです。

文／広報委員会一同

特集内容を考えるにあたり、安達会長が座談会で触れた「なぜ坐禅会を広めなければならぬのか」を捉え直す必要性があるとの言葉を私たちは重く受け止めました。そして、さまざまな青年僧侶の視点から坐禅会を広める術(すべ)を模索してみましたがいかがでしたでしょうか？広報委員会からは他にも、坐禅会について次のような事例が報告されました。

【坐禅会の記憶】

坐禅会は、私たち僧侶側が思う以上に、参加者の心に残るのかもしれない。

夏休みの1週間、毎朝お寺で勤められて





第5回こども自然ふれあい広場in徳島



『第5回こども自然ふれあい広場in徳島』は、7月25日から28日までの4日間、徳島県海部郡美波町で、四国管区教化センター主催の『こども禅キャンプ』（7月25日から7月27日）と併催されました。四国地区曹洞宗青年会では、福島の子どもたちに自然を満喫し、四国の子どもたち、地域の方がたとのふれあいを通して、心を育んでいただければと開催しております。今年は、福島の子どもたち20人、四国の子どもたち25人が参加しました。

1日目、福島を出発して、午後には徳島阿波おどり空港に到着。四国の子どもたちと合流して、日和佐総合体育館で開会式を行いました。その後、JALの方から、よく飛ぶ紙飛行機の作り方を教わり、悪戦苦闘しながら作りました。実際に高いところから飛ばし、誰が一番長く飛んでいるかを競い合いました。夕方には、宿泊場所である、国民の宿うみがめ荘に到着。夜には、坐禅体験をしました。

2日目、朝6時に起きて、坐禅・朝のおつとめ、布教師の方によるお話、朝食、掃除を行いました。

午前中には、うみがめ博物館の見学。様

ざまなウミガメを見たり、エサやりを体験。実際に卵の殻を触ったりと興味深く見ていました。そして、長い階段を上り四国

霊場第23番札所薬王寺に参拝。お遍路さんと一緒にお経をお唱えしました。午後からは、悪天候のため、浅川町のまぜの丘屋内温水プールに移動して、和尚さんと一緒に泳ぎました。

3日目も同様に、朝6時に起きて、坐禅・朝のおつとめ、布教師の方によるお話、朝食、掃除を行いました。その後、徳島市の阿波おどり会館で、阿波おどり会館専属連「阿波の風」のおどりを鑑賞。おどりと楽器の演奏を間近で見ることができ、そのパフォーマンスに圧倒されました。実際に指導していただき、慣れない動きで戸惑いながらも阿波おどりを体験しました。最後には舞台で、円を描きながら一緒におどりしました。昼からは、四国の子どもたちに見送られ、鳴門に移動。プールと海水浴に分かれて、疲れも感じさせず、時間の許す限り遊びました。

最終日、ホテル周辺を朝涼しい中散歩して、徳島阿波おどり空港へ出発しました。



親御さんや友達へのお土産を買って、子どもたちは、帰路につきました。

この期間、食事の前に五観の偈をお唱えします。その際に和尚さんから、食事の大切さ、感謝の心を持つことの大切さなどが話されました。あいさつ、お礼の言葉が自然とできるようになり、このふれあい広場に多くの人が携わっていることを実感し、感謝の心を持つことができたのではないかと思います。また、様々なふれあいを通して、心を育んでいけるよう、今後も活動していく所存です。

ふれあい広場の事業にご賛助いただいた各御寺院、各団体、個人ほか多くの皆さまに厚く御礼を申し上げます。

文／四国地区曹洞宗青年会会長

杉生和之



秋田県曹洞宗青年会

こども自然ふれあい広場

男鹿なまはげ教室2016

8月1日から3日にかけて、秋田県男鹿市で「こども自然ふれあい広場 男鹿なまはげ教室2016」と題して福島県、宮城県、岩手県の被災三県の子ども達を招待し、東日本大震災により不自由な生活を余儀なくされ、思い切り遊ぶ環境も少なく、友達と離ればなれになるなど、まだまだ大きなストレスを感じている子どもたちに、大自然とのふれあいを通じて身心のリフレッシュをして交流を深めてもらう目的で開催されました。

秋田に到着した子ども達は、まず船越観光案内所の高さ15mの巨大な「なまはげ像」に出迎えられ、男鹿半島の寒風山へ向かいました。山頂にある展望台からは周囲360度、70km先まで見渡せる回転展望台で遠くの街や白神山地の山やま、広大な海や空を眺め秋田の絶景を堪能していました。夜には、東京のプラネタリウムで解説の仕事をしてきた恩徳寺副住職の岩館裕章師を講師に『テラネタリウム』と称して星空の観察会を行いました。お寺の中で星座や星の勉強をした後、外に出て夜空を見上げ、澄んだ空気に満点の星ほし、その輝きに歓喜し胸を躍らせていました。その後、境内で花火を楽しみ、参加者同士親交を深めました。

この日は男鹿市北浦、雲昌寺の本堂と位牌堂に布団を敷き宿泊。寺泊が初めての人は消灯後怖くて寝られない子がいたり、皆で寝るのが楽しくておしゃべりが止まらなかつたりとわくわくの夜でした。

2日目は、男鹿市の伝統行事「なまはげ」を体験する為に「なまはげ館」を訪ね、100体を超えるなまはげの像の見学の後、本物のなまはげと対面しました。「うお、なぐ子はいねが〜」と大きな声で威嚇されると、子ども達はやはり驚いた様子。勇気を振り絞り、なまはげの身体から幸せになれるという言い伝えの藁わらを抜き取ってガッツポーズをする子もいました。

次に、一番楽しみにしていた海遊びです。五里合海岸では浮き輪やビーチボールの他に水上バイクやパドルボード等、初めての体験に心躍らせながら「海初めて!」「楽しい!」と歓声を上げ大はしゃぎ、秋田の海を楽しんでくれました。その笑顔に私たちがパワーを貰ったような気がします。

夕食の後は、「男鹿温泉郷交流会館五風」で手品等のレクリエーションをし、ご当地「なまはげ太鼓」も鑑賞しました。なまはげ太鼓の演奏は、ステージ最前列で大盛り上がりで聞き入っていました。

この日の宿泊は「温泉旅館ゆもと」です。2日間の疲れを癒すようにぐっすり寝入っていました。

最終日は男鹿水族館G.A.Oで、水族館係員が餌の準備をしている様子など、一般客が入ることのできない場所の貴重な体験をし

ました。

最後は、入道崎灯台の下で記念写真を撮り、想い出作りにストラップの手作りにも挑戦しました。

長引く避難生活や、いまだ収束していない原発事故による閉塞感で、被災地の子ども達は生き方や将来への不安を抱いているのが現状です。この「こども自然ふれあい広場」に参加した子ども達の心に、ほんの一筋でも光を感じていただく事ができたとするならば、秋田県曹洞宗青年会の一員として大変うれしく思います。

各方面より多大なるご協力、ご賛助をいただきました事を、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

文／秋田県曹洞宗青年会庶務 高柳龍哉



山梨で「禅の食育」に参加 味来食堂に新たな可能性



右／宗務所長老師も調理に参加
左／参加者に自己紹介する講師陣

平成28年9月2日(金)午後1時30分から、山梨県甲府市の男女共同参画推進センター「びゅあ総合」2階調理実習室を会場に、曹洞宗山梨県宗務所主催の精進料理教室「禅の食育 ―精進料理に学ぶ―」が開催され、山梨県内の寺族の方が16人が参加されました。

協賛として、山梨県曹洞宗青年会の会員と共に、全国曹洞宗青年会からも「味来食堂」で講師を務める河口智賢師(全国曹洞宗青年会教化法式委員長)、山崎元道師(全国曹洞宗青年会教化法式委員)が参加いたしました。

主催者を代表して曹洞宗山梨県宗務所の堀内正樹所長老師から、「お寺と檀家」という関係が、「お寺と個人」という関係に変化しつつある時代です。そんな中、「禅の文化」が今求められています。精進料理とは何なのか、禅とは何なのか、食を通して学ぶ機会を増やしていきたいと思いい、この教室を開催しました」とご挨拶がありました。

講師は前述の河口師、山崎師と、伊藤知範師(ともに山梨県曹洞宗青年会所属)が務められました。

全国曹洞宗青年会が主催する「味来食堂」のノウハウを用いて進行し、先ず、河口講師から精進料理の基本的な考え方である「三

徳六味」と「三心(喜心・老心・大心)」についての講義があり、その後、調理の基本となる「精進出汁」について学んでから、4班に分かれ実際に精進料理を参加者が作りました。班別の調理では講師や宗務所諸老師・青年会会員が加わり、調理指導や精進料理についての詳細なお話をされていました。

この日の精進料理は全4品。

- ・枝豆の白和え
- ・梅混ぜご飯
- ・揚げ茄子の生姜醤油ジュレ
- ・長芋とオクラの冷たいお吸い物

全てを器に盛り付けた後、全員で合掌し『五観の偈』をお唱えして食事をいただき、食後は再び全員で合掌し『普回向』をお唱えいたしました。

東京以外での味来食堂の協賛開催は初めてでしたが、味来食堂を展開する教化法式委員会の河口委員長が曹洞宗山梨県青年会所属であること、また曹洞宗山梨県宗務所、曹洞宗山梨県青年会会員諸師による熱い思いとご準備があり、この開催に至りました。

大きな教室に集まった16人の参加者は精進料理や禅に日頃接している寺族の方がた、またスタッフも宗務所・青年会で多くおられた(合計13人)こともあり僧侶だけで同じメニューを作ってみたり、参加者の中に複数の僧侶が入って調理をサポートしたりと普段の味来食堂とは一味違った、味来食堂の一面と新たな可能性が垣間見えた思いでした。



執行部会・理事会

平成28年9月6日午後1時30分から、曹洞宗檀信徒会館4階「芙蓉の間」で執行部会、翌日の9月7日午前8時から同会場で開催されました。各委員会からの活動中間報告、頒布物の新企画や傾聴研修会開催についての上程議案、災害復興支援部から「東日本大震災七回忌 慰霊速夜復興祈願イベント」「各地台風被害について」「平成28年度つるみ夢ひろば」についての報告があり、執行部会で確認・修正を重ねた後、



上／蓮根饅頭をフライパンで焼く
下／食後の『普回向』

新潟で「味来食堂」開催 継続開催を望む声挙がる

平成28年9月16日(金)午後1時30分から、新潟県長岡市J.A越後ながおか「なじら」東店」店内の市民交流施設調理実習室を会場に、新潟県曹洞宗長生青年会(新潟県長岡市近郊の青年会)主催の精進料理教室「僧食を学ぼう! 味来食堂」が開催され、15人が参加されました。

共催として、全国曹洞宗青年会が展開する「味来食堂」のノウハウをご利用いただき、地元から全国曹洞宗青年会に参加している近藤師が参加いたしました。

講師は長生青年会が務められ、参加者とともに調理を行いながら、1時間30分という限られた時間の為、メニューによっては

僧侶のみで作成されていました。この日の為に事前に試作を行い、時間配分などを計画されたそうです。

また、この日の会場はガラス張りの部屋で、隣接する直売施設「なじら」東店のレジ近くから中の様子が見えることもあり、多くの買い物客が興味深げに「味来食堂」の様子を覗き込んでいました。

この日の精進料理は全6品。

- ・すまし汁
- ・蓮根饅頭のおんかけ
- ・白和え
- ・胡麻豆腐

・茹でなすの刺身風

器に精進料理を盛り付けている間に近藤教化法式副委員長から『五観の偈』に関する講義を行った後、全員で合掌し『五観の偈』をお唱えして食事をいただきました。精進料理や修行についての質問もあり、丁寧に講師や参加スタッフが答えられていました。食後は再び全員で合掌し『普回向』をお唱えいたしました。

山梨に続く味来食堂の協賛開催でしたが、当日もスタッフとして10人が参加した長生青年会諸師が事前に入念な準備をされたこともあり、多少のトラブルにも難なく対応されていきました。参加者からは継続的な開催を望む声が挙がり、会場外から様子を見ていた方、また終了後にチラシを見た方からも次回参加希望が出るなど非常に反響が大きかったように感じました。

山梨県では宗務所主催による寺族対象、新潟県では青年会主催の一般対象とそれぞれに特徴のある開催となりました。また、会場選定や事前準備など大変な面もありますが、参加者の反響は非常に大きく、開催された両県とも、十二分に手応えを感じられているようでした。東京開催だけ、また全国曹洞宗青年会主催だけでなく、開催地の特色や特産品を食材に用いながら、各地での今後の開催に可能性を感じる両開催でした。

(山梨・新潟ともに)文／広報委員長

宮入真道

翌日の理事会に上程し、理事の皆様には審議いただきました。

各委員会の活動中間報告の中では、従来の活動を踏襲しつつ新しい試みの報告や準備も報告され、特に教化法式委員会では、一般の方、また宗務所や青年会からの要望も多かった「味来食堂」の地方開催、また、約2年9ヶ月振りとなるyoutubeでの新作動画公開(精進料理教室「味来食堂」僧食を学ぼう)PV <https://www.youtube.com/watch?v=WHUkFz14Y>などが報告されました。

また、9月7日正午からは会長選考委員会も開催され、既に5月の定期評議員会・定期総会で次期会長に内定した倉島隆行副会長を中心に、今後の日程や活動について意見が交わされました。





復興支援部会議

平成28年6月23日午後1時から、福島県福島市の曹洞宗東日本大震災復興支援室分室を会場に、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）災害復興支援部会議を行い、復興支援室分室から久間主事以下4人、全曹青から安達会長以下8人が出席しました。熊本地震について現在の情報共有と今後の対応、東日本大震災七回忌について地元寺院・青年会、全日本仏教青年会の慰霊法要

の動向確認と七回忌に向けての取り組みについて、徳島と秋田で開催される「自然ふれあい広場」について検討しました。

続いて午後3時から復興支援室分室を会場にストックヤード会議を行い、全国5カ所に設置されたストックヤードの内4寺院の皆様と復興支援室の武藤係長にお越しいただき、支援部会議参加者とともに議事を検討しました。

熊本地震の初期対応では、各地のストックヤードから炊き出し器材セット、発電機、非常用備蓄食料が搬入され、現地での炊き出しに利用されました。

設置初期には「設置寺院周辺の住民の生命維持に寄与する」ことを主に想定していたストックヤードですが、「遠隔地での大規模災害の救援活動に寄与する」一面も大きくなりました。遠隔地で災害が発生した時の輸送方法、どこに何があり拠出できるかなどの情報集約、物品の更新・維持、新たなストックヤードの設置や意識啓発・情報提供、他宗派との連携など、様々な面から設置寺院様からもご意見をいただき、協議いたしました。

平成28年熊本地震復興支援活動への御礼

熊本地震復興支援活動に際し、全国各地よりご支援を賜りまして誠にあり

がとうございます。現在熊本市街地では発災前の日常をほぼ取り戻し復興が進みつつありますが、震源地の益城・阿蘇をはじめとした熊本県東部地域では現在でも自宅に帰ることができず、たくさんの方がたが避難所での生活を余儀なくされています。

我われ九州曹洞宗青年会は夏季、お盆の時期を挟み各会員ともに行持・檀務が続く、大幅な活動の制限を余儀なくされるように活動ができず、大変申し訳ありませんでした。

9月から、被災された方がたや自治体の要望に沿って「食事の炊き出し」活動から「お茶会」活動へ移行いたしました。今後はお茶会を通して傾聴活動を

はじめとした心のケアを中心にとめてまいります。

熊本復興は道半ばであります。引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

文／九州曹洞宗青年会会長 須川憲司

平成28年台風10号被害について

平成28年8月30日夕方、岩手県大船渡付近に上陸した台風10号により岩手県内、北海道内で河川の氾濫や土砂災害によって死者22人、行方不明者6人（平成28年9月13日現在）という尊い人命が失われました。

全曹青では発災以来、安達会長の元、富田北海道管区理事・天野東北管区理事にご協力をお願いし、情報収集を開始いたしました。岩手県宮古市内の宗門寺院では、土砂による一時孤立状態や、裏山の土砂の崩落により本堂裏に土砂が流出したなどの被害が報告され、北海道内でも倒木による本堂屋根の破損、床下浸水の被害が報告されました。

岩手県曹洞宗青年会・北海道第二宗務所青年会内第4教区「照心会」を中心に、発災当初から寺院復旧作業・一般ボランティア活動・支援物資を配給するなどの活動も始まっております。

平成28年熊本地震 震災義捐金受付先

- 名義：大分県曹洞宗青年会
ゆうちょ銀行振込口座
口座番号：01540-3-4527
- 名義：熊本県曹洞宗青年会
ゆうちょ銀行振込口座
口座番号：01760-0-117152

「震災義捐金として」と明記の上、必ず振込用紙でご送金ください。尚、住所・氏名のご記入をお願い申し上げます。匿名でのご送金はお断りさせていただきます。

被災地 平成28年台風10号 支援活動レポート



いる橋、薙ぎ倒された電柱やガードレールがあり、中州には数多くの流木が残っていました。

9月26日午前、岩泉町小本防災センターには岩曹青会員の他に、曹洞宗福島県青年会（以下、曹福青）の4人の方も合流し、ボランティアセンターへの登録を行ってから、活動を行う町内の「中里地区交流センター」に向かいました。

この交流センターは、堤防道路を挟んで小本川のすぐ近くにあり、地域一帯を覆った泥流が建物内に流入してしました。地元の方にお聞きすると、センターの隣にある公園や田んぼなどにも泥水が流れ込んだそうです。一面にひび割れ

た泥が広がる景色が、川から溢れた水の恐ろしさを残していました。

岩曹青で準備いただいたスコップや手押し車、更に地元の方からお借りした軽トラックなどを使い、建物内の堆積した泥を屋外に運び出したり、廃棄せざるを得ないものを集積所まで搬出しました。厚さ30センチほどに堆積した泥は川の水を含んで非常に重く、スコップで掬っては手押し車で外に運ぶ作業を合計13人で繰り返ししました。朝は曇っていた天気も昼には日差しも出たことで気温が上がり、休憩を挟みながら室内の運び出しも汗だくで作業を続けました。この日は建物内の泥の3分の2ほどを屋外に運ぶことができました。

の方も「来てみなければここまで大変だとは分からなかった」と話していました。被害が大きい為には一日では終わらない作業も多く、今回の中里地区交流センターも、その後重機をレンタルして東三河・秋田・山形の各曹青会、静岡第二宗務所様、また地元中学生の応援を得て周辺の土砂の撤去作業を改めて行われました。

交通孤立が解消したことで物資やボランティアは入っておりますが、復興への道はまだ始まったばかりです。既にこの日の曹福青の皆様のように、東北近県など多くの青年会の皆様も支援活動に入られておられます。全曹青も引き続き情報の発信に努めつつ、支援活動のマッチングなどをサポートしてまいります。

文／広報委員長（災害復興支援部）

宮人真道

平成28年8月30日に日本列島を縦断した台風10号は、東北地方や北海道に大きな被害をもたらしました。災害復興支援部では、各青年会と共に情報の収集と発信に努め、各地青年会では道路が寸断されていた初期段階から情報連絡や支援活動を行ってきました。その中で、9月26日に岩手県曹洞宗青年会（以下、岩曹青）の活動に参加させていただきました。

前日に岩手県に入り、往路は盛岡市から閉伊川沿いに宮古市に向かうルート、翌日の復路は岩泉町から小本川沿いに盛岡市に戻る道を車で通行しました。両河川とも氾濫の痕が大きく残り、路肩が削られ片側交互通行になっている場所、途中から流されて無くなって

上／公園は、今もひび割れた泥が積もったまま
中／泥を一輪車に乗せては、屋外へ運び出す
下／泥の中からは、備品のテレビやストーブが



全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。

この度もご協力いただき誠に有難うございました。

226 常隆寺 様	308 洞仙寺 様	100 澄月寺 様	◆山形県第3	237 龍泉寺 様
263 慶徳寺 様	◆岩手県	105 東昌寺 様	468 宗傳寺 様	261 見性寺 様
275 性源寺 様	25 宝積寺 様	158 見性寺 様	734 東光寺 様	321 鏡得寺 様
276 龍雲寺 様	32 吉祥寺 様	189 乗照寺 様	740 長應寺 様	343 松林寺 様
304 梵音寺 様	120 菅生院 様	◆山形県第1	◆秋田県	◆北海道第1
307 保福寺 様	123 寶城寺 様	36 久昌寺 様	10 歆喜寺 様	482 龍仙寺 様
311 長照寺 様	196 建高寺 様	52 柳澤寺 様	80 泉秀寺 様	486 薬王寺 様
340 慶徳寺 様	232 龍昌寺 様	101 長泉寺 様	83 大泉寺 様	504 達磨寺 様
400 定林寺 様	247 正福寺 様	194 龍護寺 様	85 寶圓寺 様	◆北海道第2
406 浄泉寺 様	269 龍泉寺 様	211 長泉寺 様	87 慶祥寺 様	171 開原寺 様
449 松庵寺 様	◆青森県	241 福昌寺 様	165 能持院 様	◆北海道第3
461 正法寺 様	19 宗徳寺 様	◆山形県第2	174 満福寺 様	195 定光寺 様
◆宮城県	22 恵林寺 様	373 輪王寺 様	184 護昌寺 様	242 祇園寺 様
24 妙心院 様	66 大慈寺 様	393 館山寺 様	192 善福寺 様	244 報國寺 様
59 清水寺 様	74 浮木寺 様		209 満友寺 様	
177 珠光寺 様	98 東光寺 様		212 靈仙寺 様	
212 祥雲寺 様			216 向川寺 様	

ボランティア基金感謝録

東京都 青松寺 様	静岡県 霊山寺 様	島根県 興源寺 様	福島県 吉祥院 様
東京都 長泉寺 様	静岡県 盤龍寺 様	島根県 薬師寺 様	福島県 普光寺 様
東京都 光寶寺 様	静岡県 宝持院 様	島根県 完全寺 様	福島県 正法寺 様
東京都 慈眼寺 様	静岡県 福王寺 様	長崎県 鏡円寺 様	宮城県 清水寺 様
東京都 松月院 様	静岡県 林慶寺 様	長崎県 智性院 様	岩手県 宝積寺 様
東京都 梅岩寺 様	愛知県 報恩寺 様	佐賀県 元光寺 様	岩手県 宝城寺 様
東京都 俊朝寺 様	愛知県 全久院 様	熊本県 地藏院 様	岩手県 正福寺 様
東京都 泰宗寺 様	愛知県 慈眼寺 様	熊本県 芳證寺 様	岩手県 菅生院 様
東京都 清巖寺 様	愛知県 寶珠院 様	熊本県 神照寺 様	青森県 恵林寺 様
神奈川県 本覺寺 様	愛知県 成福寺 様	宮崎県 法泉寺 様	青森県 浮木寺 様
神奈川県 東照寺 様	愛知県 洞牧寺 様	長野県 福泉寺 様	青森県 乘照寺 様
埼玉県 醫王寺 様	三重県 庭岩寺 様	長野県 宗福寺 様	青森県 東光寺 様
群馬県 龍傳寺 様	三重県 宝泉院 様	長野県 龍勝寺 様	山形県 宗傳寺 様
群馬県 常仙寺 様	三重県 安心寺 様	長野県 向陽院 様	山形県 龍護寺 様
栃木県 傑岑寺 様	三重県 養泉寺 様	福井県 龍門寺 様	山形県 東光寺 様
茨城県 定林寺 様	滋賀県 永寿院 様	福井県 洞善寺 様	山形県 久昌寺 様
茨城県 龍心寺 様	京都府 善光寺 様	福井県 清福寺 様	秋田県 靈仙寺 様
茨城県 龍泉院 様	京都府 岩屋寺 様	新潟県 善昌寺 様	秋田県 護昌寺 様
千葉県 中滝寺 様	京都府 苗秀寺 様	新潟県 花栄寺 様	秋田県 歆喜寺 様
千葉県 慶林寺 様	大阪府 臨南寺 様	新潟県 雲泉寺 様	秋田県 泉秀寺 様
千葉県 観音寺 様	兵庫県 三宝院 様	福島県 石雲寺 様	北海道 達磨寺 様
千葉県 満蔵寺 様	兵庫県 谷松寺 様	福島県 慶徳寺 様	北海道 開原寺 様
山梨県 宝鏡寺 様	兵庫県 向榮寺 様	福島県 龍雲寺 坐禅会 様	北海道 定光寺 様
静岡県 十輪寺 様	兵庫県 瑠璃持 様	福島県 性源寺 様	
静岡県 宗心寺 様	広島県 龍仙寺 様	福島県 長泉寺 様	
静岡県 正泉寺 様	広島県 光禪寺 様	福島県 長照寺 様	
静岡県 福泉寺 様	鳥取県 養光院 様	福島県 梵音寺 様	

[賛助費浄納御芳名簿]

平成28年7月1日～平成28年9月30日取扱い分

◆東京都

3 俊朝寺 様
6 光寶寺 様
6 光寶寺 様
42 慈眼寺 様
90 梅岩寺 様
149 松月院 様
175 泰宗寺 様
177 清巖寺 様
239 宗保院 様

◆神奈川県第1

312 保福寺 様

◆神奈川県第2

1 本覺寺 様
10 隨流院 様
21 東照寺 様
394 長尾寺 様

◆埼玉県第1

392 報恩寺 様
436 陽雲寺 様

◆埼玉県第2

280 醫王寺 様

◆群馬県

83 常仙寺 様
99 龍傳寺 様
188 實相寺 様
194 善宗寺 様

◆栃木県

52 傑岑寺 様
66 芳全寺 様
67 海潮寺 様
86 妙蕙寺 様

◆茨城県

145 性山寺 様
160 定林寺 様
162 林翁寺 様
172 大聖院 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
25 萬福寺 様
29 慶林寺 様
45 大洞院 様
48 観音寺 様
90 等覚寺 様

194 中瀧寺 様
357 永福寺 様

◆山梨県

59 信盛院 様
265 宝鏡寺 様

◆静岡県第1

4 大林寺 様
50 盤龍寺 様
152 宝持院 様
175 靈山寺 様
186 成安寺 様
391 十輪寺 様
463 榮昌寺 様
464 正泉寺 様
551 成道寺 様

◆静岡県第2

259 常雲寺 様
362 福泉寺 様
363 観音寺 様

◆静岡県第3

678 宗心寺 様
988 福王寺 様

◆愛知県第1

28 長松院 様
82 成福寺 様
139 祇園寺 様
166 東陽寺 様
252 慈眼寺 様
313 長松寺 様
336 弥勒寺 様
375 春江院 様
607 林宗寺 様
635 永澤寺 様

◆愛知県第2

813 全久院 様
872 傳法寺 様

◆愛知県第3

428 寶珠院 様
431 報恩寺 様
525 極楽寺 様
557 楞嚴寺 様

◆岐阜県

162 清楽寺 様
182 光円寺 様
239 慈眼寺 様
240 林陽寺 様

◆三重県第1

15 養泉寺 様
24 一心院 様
39 庭岩寺 様
83 涼泉寺 様
240 安心寺 様
246 寶泉院 様
269 大蓮寺 様

◆三重県第2

371 光明寺 様
391 永明寺 様

◆滋賀県

186 三玄寺 様

◆京都府

4 無学寺 様
26 岩屋寺 様
46 榮春寺 様
67 苗秀寺 様
166 龍澤寺 様
236 善光寺 様
378 徳昌寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

5 臨南寺 様
18 大倫寺 様
107 實相院 様
109 法蔵寺 様

◆兵庫県第1

9 三宝院 様
77 青龍寺 様
287 向榮寺 様
340 永春寺 様

◆兵庫県第2

117 法門寺 様
121 徳壽寺 様
134 谷松寺 様
160 瑠璃寺 様
173 瑞雲寺 様

◆岡山県

3 長川寺 様
178 成興寺 様

◆広島県

22 光禅寺 様
46 双照院 様
89 積善寺 様
158 西福寺 様

◆山口県

25 弘濟寺 様
72 真福寺 様

◆鳥取県

139 養光院 様
143 瑞應寺 様
151 安国寺 様
158 補岩寺 様

◆島根県第1

332 興源寺 様

◆島根県第2

18 萬松院 様
66 淨心寺 様
70 完全寺 様
119 常光寺 様
135 薬師寺 様
169 長安寺 様

◆愛媛県

146 興雲寺 様

◆福岡県

28 桂木寺 様
117 長安寺 様
158 報恩寺 様

◆大分県

76 福巖寺 様

◆長崎県第1

23 智性院 様
26 鏡圓寺 様
32 正應寺 様
78 宝泉寺 様

◆佐賀県

150 元光寺 様

◆熊本県第1

48 神照寺 様
60 含蔵寺 様

◆熊本県第2

78 地藏院 様
105 芳證寺 様

◆宮崎県

6 祐國寺 様
35 法泉寺 様

◆長野県第1

12 松巖寺 様

38 耕雲庵 様
66 寶藏院 様
105 福泉寺 様
121 浄光庵 様
130 福泉寺 様
346 向陽院 様

◆長野県第2

389 宗福寺 様
400 長久寺 様
491 龍勝寺 様
512 浄蓮寺 様
557 広正寺 様

◆福井県

69 龍門寺 様
242 清福寺 様
265 西方寺 様
272 洞善寺 様
291 福聚寺 様

◆新潟県第1

390 東禅寺 様
397 善昌寺 様
496 長樂寺 様

◆新潟県第2

723 海潮寺 様

◆新潟県第3

530 花栄寺 様
580 賞泉寺 様

◆新潟県第4

23 観音寺 様
53 英林寺 様
228 雲泉寺 様
265 東林寺 様
749 蓬林寺 様
817 日照寺 様

◆福島県

41 石雲寺 様
62 仙林寺 様
79 西松寺 様
94 松蔵寺 様
101 成林寺 様
103 小国寺 様
110 龍徳寺 様
111 普光寺 様
112 耕雲寺 様
121 長泉寺 様
133 永禄寺 様
173 長慶寺 様
209 吉祥院 様

face of
of
全曹青

国際委員会紹介



栖川直道
委員長

今期から新たに発足いたしました国際委員会は、国際布教活動、国際ボランティア活動、そして国際交流活動の3つの矢を基に活動しております。先ず国際布教活動とは、曹洞宗並びに日本仏教界がこれまで長年に渡って邁進してきた海外での布教活動を修学するとともに、日本にいる多くの外国人に対し、日本仏教、特に曹洞宗への見地を広める活動です。次に国際ボランティア活動とは、ここ数年、日本のみならず海外各地で発生している災害に対し、実際に現地へ赴き、被災した方がたに対し、支援活動を行います。最後に国際交流活動とは、今までの

歴史をふまえながら、第21期の『笑顔の君と おなじ空を見上げて』というスローガンのもと、全世界の青年仏教徒との交流を深め、仏教文化の宣揚と世界平和の進展に寄与するとともに、日本仏教の更なる理解を得るための国際交流、並びに国際的な仏教活動への積極参加、さらに、その活動を円滑にするための、次世代を担う人材の発掘と国際感覚を備えた人材の育成を目指しております。

ここ数年、社会ではますます国際化が進み、また、多くの外国人観光客が訪日しており、仏教社会でも他人事では無くなってきております。これからは僧侶なりとも、グローバルな視野、感覚を持つことが必要になると思います。国際委員会としては、今後とも出来る限り様々な情報発信や、また海外活動を考えておりますので、皆様にもご参

加いただければと考えております。



森 孝基
副委員長

滋賀県曹洞宗青年会から、20期（国際特別委員）に引き続き参加させていただいております。

国際活動と聞くと言語の違いや文化の違いに戸惑う事もありますが、接する方がたは皆同じ仏教徒であり、この絆をより多くの僧侶そして檀信徒の皆様と共有出来るよう、微力ながら精進いたします。



松田英寿
委員

山形曹洞宗青年会から国際委員会に参加させていただいております。

宗門の国際布教は予てより広く世界で展開されておりますが、その活動や現状は日本国内ではあまり知られておりません。今委員会の活動を通して、世界各

地で等しく仏教や曹洞禅を信仰する方がたとの交流を図り、その声をお届けできれば幸いです。



大橋康道
委員

曹洞宗愛知県第二宗務所青年会から参加させていただいている大橋康道と申します。

栖川委員長とは古くから付き合いがあり、縁あって国際委員として活動させていただくことになり、光栄に感じております。つながりを大事にし、精一杯頑張っていきます。



尾谷弘哉
委員

京都曹洞宗青年会から参加させていただきます。

はじめての経験で至らぬ処も多々ございますが、力の限り努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

心をかたちに 感動の旅!

ビーエス・グループ会

〔幹事〕東京本社

〒105-0004 東京都港区新橋三丁目2-7 恭和ビル2F
TEL (03) 3502-4041 FAX (03) 3502-5416

青年僧侶による電話相談 全国曹洞宗青年会 観世ふおん

どんなことでも、あなたのお話をそのままお聴かせください。

☎080-2729-2398 ☎080-1546-7464

☎080-1547-5646

※いずれかの番号へお気軽にお電話ください。

毎週日曜日の夜▶22:00~24:00

*個人の秘密は必ず守られます。

お名前、ご住所などはお話しする必要はありません。

*相談は無料です(通話料のみ)

あなたのお悩み
一生懸命聴かせて
いただきます



連載 伝え方のデザイン

第5回

宗教間対話の
ススメ

曹洞宗八屋山普門寺副住職

吉村昇洋

わたしは曹洞宗の僧侶が仏教的な内容を他者に伝えるとき、何か特別なことでもない限り曹洞禅をベースにした物言いになる。これは、当たり前のことのように聞こえるかも知れないが、自覚していないと足もとをすくわれる結果となることがある。

というのも、曹洞宗という集団に所属しているという事実は、私たちの認識に無意識に影響を与えており、社会心理学でいうところの「内集団バイアス」がかかりやすくなる。内集団バイアスとは、「自分が所属している集団または成員は、実際には優劣の差がないにもかかわらず、外集団と比べて優れていると評価する無意識の心理状態」のことだが、我われに置き換えて考えてみると、自分たちの所属する曹洞宗を無意識のうちにも最良するあまり、他宗派・他宗教のことを軽んじてしまいがちになるといふことである。

では、どのように軽んじるのかというと、多くの場合、一般的に言われるようなステレオタイプを鵜呑みにして、他宗派・他宗

教を間違って理解してしまう。すると、それ以上の関心を持たなくなるので、これに関して思考停止してしまうのだ。どこの誰が言ったかも知れない「〇〇宗は△△という教え」という言説を、自分で精査することもなく、曹洞宗の宗旨との比較の中でネガティブに語られる様子を実際に見聞きしたことはないだろうか？ もしくは、自分自身がやってはいないだろうか？

これまで、たくさん僧侶と話をしてきて、何度もそういう場面に出くわした。また、他宗の人から、間違った曹洞禅の理解を前提に見当違いな批判をされて困り果てたこともある。翻ってみればかつてのわたしも、他力本願を宗旨とする浄土真宗の人に、知ったかぶりをして「真宗さんは他人任せの教えなんですよね？」などと勘違い発言をし、恥をかいた経験がある。そういう経緯もあって、わたしはまず他宗派・他宗教の信者としてしっかりと対話を通して、理解を深めるように心がけている。

このようなことを言っていると、道元禅師は『弁道話』の中で「又、読経、念仏等のつとめにうるところの功德を、なんぢのやいなや。ただしたをうごかし、こえをあらざるを仏事功德とおもへる、いとほかなし。」と否定しており、道元禅師は『正伝の仏法』としての坐禅を重んじたのだから、他宗への理解を深める必要はないと考える方もおられるだろう。しかし、『正伝の仏法』とは、文字からイメージするような、自己の主張が積尊と直結する唯一無二の正当性を担保

していることを示しているのではなく、釋林皓堂『道元禅の研究』にいう「教禅未分以前の全一の仏法」や「諸宗派を分流発展せしめる以前の純一の仏法」、つまり、積尊成道後の教説を正しく踏襲することではなく、そもそも積尊が成道に到るにあつたところの純一なる「坐禅」を踏襲することを意味する。つまり、上座部、大乘関係なく積尊成道後の全ての教えの元となった「坐禅」を指すわけだから、我われ曹洞宗侶の立場からいえば、經典を読み、南無阿弥陀仏と念仏を唱えることの中にも、『正伝の仏法』を観ずることができるはずなのである。

有り難いことに、わたしは10年以上前から仏教系ウェブマガジン「虚空山彼岸寺」や東京愛宕の青松寺で開かれていた「ポーズ・ビー・アンビシャス」などで、全国各地に点在する超宗派の僧侶たちと関わる機会を得ていた。そこで出会った各宗派の人びとと仏教について語り合うにつれ、他宗の思想について色いろと理解することも増え、何より、曹洞禅について誤解を取り除く良い機会になつていると感している。

知りもしないで他の思想を否定するのはなく、しっかりと耳を傾けた上で対話を行い、相手への理解を深め、自分のことを伝えていく中で、曹洞禅に対する自己の向き合い方もより深いものになつていく。

そのためには、これまで通り曹洞禅について学び続けるのは当然のこと、他宗派・他宗教についても学ぼうとする姿勢が大切ではないかと思う次第である。

総合御寺院用仏具専門店
株式会社 七福商事
☎ 0943-32-5103

西日本 丸太屋佛具店 ☎ 0943-32-4036
東日本 福祿堂佛具店 ☎ 0120-77-2969

ホームページ <http://www.sichifuku.jp>
本社・工場・展示場 〒834-0111 福岡県八女郡広川町日吉 1407
関東営業所 〒347-0063 埼玉県加須市久下4丁目 1-2



洗える高級新素材専門
全国御寺院様専門、御自坊出張販売
スペシャルオーダーメイド システムメーカー

御誂 法衣・袈裟・白衣・作務衣・頭陀袋 専門処
創業60余年 (株)坂口衣芸工房

〒501-6236 岐阜県羽島市江吉良町1115番地
Tel 058-392-3121 Fax 058-392-5589
<http://www.s-samue.com> E-mail info@s-samue.com
多少にかかわらず社員一同お待ちしております

全国曹洞宗青年会 『傾聴研修会』のご案内

全国曹洞宗青年会では、『観世ふおん』電話相談事業等で現在まで培った傾聴に関する研修プログラムを再構築し、『傾聴研修会』として開催いたします。

寺院の玄関先や檀務等の際、檀信徒および一般の方がたとに対峙する中で、ともに向き合うことが僧侶として大切な役目となっています。相手の立場や想いを尊重し、一心に耳を傾けます。その寄り添いの中で、悲しみや苦しみで心が詰まっていた方が自然な流れで自分の道を見出せるようになればと考えます。傾聴する対象は特別な環境で苦しんでいる人たちだけではなく、ごく当たり前の日常生活を生きる方がたです。何とか力になりたい、支えになりたいと想い寄り添う、その手段と姿勢を学びます。

今回、広島県広島市で開催する研修会では“笑顔の君とおなじ空を見上げて”のテーマで開催いたします。傾聴の実践を通して現代社会で苦悩する人たちに笑顔が生まれる一助としていただければと考えます。ご多忙中とは存じ上げますが、是非ともご参加くださいます様、お願い申し上げます。

日時／平成29年2月16日(木)
12:30 受付
13:00 開講式・研修～18:30
2月17日(金)
9:00～12:00 研修・散会
場所／ホテル サンルート広島
(広島県広島市中区大手町3-3-1)
講師／・臨床心理士 近藤卓氏
(山陽学園大学生活心理学教授・
日本いのちの教育学会会長)
・全曹青『観世ふおん』電話相談員

参加定員／60人

参加費／7,000円

威儀／改良衣(受講中は作務衣も可)

持ち物／筆記用具等をお持ちください。

その他／宿泊は参加者各自でお手配・ご支弁ください。

・お申し込みは氏名・寺院名・連絡先を明記の上、

下記E-mailまたはFAXにお知らせください。

E-mail／mini-mikan@io.ocn.ne.jp

FAX／089-907-9500(ともに担当:中川)

締切日／2月10日(金)

問合せ／電話 090-3461-8710(担当:中川)

編集後記

夏が終わり、秋になりました。毎日の生活を大切にしていると思います。

最近、暗いニュースが多いです。特に地震が多いのですが、日本は大丈夫なのかと思うことがあります。だけど、暗いことばかり考えないで大切なことは、笑顔を忘れないことです。

笑顔になれば幸せな気持ちになれるし、まわりの人も幸せに出来ます。笑顔は大切ですね。

笑顔を忘れないということ、毎日を大切に生活をする。それこそが一番、大切なことだと思います。

誰かが言っていました。

「今日という日は、昨日亡くなった誰かが必死に生きようとした明日なんだ」

この言葉を聞いて、何か感じる思いがありました。今回の『SOUSEI』175号を見てもらった時に何かを感じてもらえたらうれしいです。

文／広報委員 関野文隆

WFBY 世界大会

9月26日から30日にかけて、韓国・ソウルで世界仏教徒青年連盟(WFBY)の第19回世界大会が開催されました。

9月27日の本会議には12カ国から21団体が参加し、2018年までの新執行部が選出され、全日本仏教青年会からは村山博雅顧問が、世界仏教徒青年連盟会長代行に選出されました。

全国曹洞宗青年会は、全日本仏教青年会を通じて世界仏教徒青年連盟に加盟しております。村山師は現在、全国曹洞宗青年会の顧問もお務めいただいております。また全国曹洞宗青年会からは、倉島副会長が青少年教化委員会副委員長、松岡第19期会長がアドバイザーに就任されることとなりました。

近年、世界情勢の不安だけでなく異常気象や自然災害が多発する中で、宗派の垣根を超え、国の垣根も超えて仏教を信仰する者が交流し団結する機運が高まっております。当会としても引き続き、日本を代表して世界で活躍される村山博雅会長代行と共に活動してまいります。